



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2015年9月1日

9月号・第164号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



GGプロジェクト (2015-7-25)

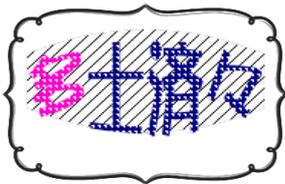
Contents

ホームページでは、カラーで見ることが出来ます



URL <http://www.naranature.com>

多士済々 (青木 幸子さん)	1	青垣春秋	12
Monthly Repo.ならやま	2	俳句百景	13
里山の今	3・4・5	癒しの散歩道 & ならやま茶論	14
7月・月例研修会・報告	6	ギャラリーならやま	15
7月・GGプロジェクト・報告	7	皆伐計画 & 仲間入りしました	16
8月・月例研修会・報告	8	ならやまプロジェクト	17
自然教室チームだより	9	字遊字感・旬菜旬食	18
「鳥」シリーズ	10	行事案内 part1&2・奈良学クイズ	19・20
やさしい病害虫講座	11	幹事会報告・申し合わせ・編集後記	21



なら山の天女か猛女か

青木 幸子 さん 顧問 川井 秀夫

平成23年春。当会へひとりの天女が舞い降りる。青木 幸子さん。シニア17期を修了され、直ちに馳せ参じて呉れました。修了式前日には東北大震災の未曾有の災禍が報じられ簡素で自粛ムードであったと印象的に述懐されておられます。



その後は皆さんご承知の通り八面六臂のご活躍で、当会の広報の発信基地としてそのIT技能を発揮され、編集部ではチェックウーメンとして正に当会の

宇宙ステーション女性管制官と言ったところでしょうか。

なら山では、里山Gの一員として山男に伍して、伐採木の整備、薪割の荒仕事、一転して炊事のお手伝い、イベントの雑用など、行動力に恐れ入り候。



なかなかの読書家で好奇心に富み、例研・歴文行事には皆勤、「歴女」誕生の予感を感じております。いやいや「猛女」「列女」？

この方にブラックジョークを飛ばすとピシヤリと肘鉄が、関係者には直言される事も多くトゲの無い理に納得する事もしばしばです。口さがない人から「小姑」とか、最近では「女将さん」の愛称で親しまれ光彩を放っておられます。

ご出身は播磨の国、宍粟(シソウ)郡(今の宍粟市)。先年の大河ドラマの主人公 黒田官兵衛の幼少期の地。大阪でOL生活をされ一男二女の母であり、七人のお孫さんに囲まれた羨ましい程の家族構成とか。お話しを伺っていると、わがふるさとに青き山河あり、この方の原風景が見えて来るようでした。

今日もバイクを駆り、ヘルメット姿をお見かけします。この人が男だったら今様 黒田官兵衛だったかも。我々の活動原点だった「生駒棚田クラブ」。故 三木氏が当会の分派として設立された「ならなぎ」にも暇があれば参画されておられる様です。最近には私に触発されて俳句にも手を染められ「軽ろみ」のある実作を投句して頂いております。まだ、難しいと謙遜か苦手なのか弟子入り宣言はありませんが・・・。

人生無常なり。水の流れば同じ形で留まる事はありません。春夏秋冬。自然の営みと共に人も彩りを忘れないように、同志たちと頑張ってください。

贈る一句

たお したた われもこう
 嫺やかになほ強かに吾亦紅

秀夫

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

7月23日(木) 活動 曇り時々小雨 37名

梅雨明け宣言がうそのようなぐずぐずとした不順な天候が続く。開始時には参加者も少なく、一斉にならやまの活動を始めることが出来ない。それでも時間の経過とともに参加者も少しずつ増え、エコGではいっぱい実った野菜の収穫に時間を費やした。また、GGの開催日は近づいてくるが予定していた参加者を対象とした説明会の開催もこういった状況では出来ない。ただ、テントの準備やGG活動に必要な物品の確認等だけはいかろうじて出来た。10時30分には活動は終了。

7月25日(土) イベント 晴れ 52+73+4名

夏休み第1回目のイベント「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！」が実施される。午前中は飯ごうすいさん、午後は昆虫採集、水生生物観察と自然工作に取り組む。合計130名近い人数がならやまに集い活動を繰り広げる。経験の少ない子供達にとって自分達でご飯を炊いたり虫を取ったり、また工作をすることはすばらしい思い出になっただろう。来月のイベントも楽しみである。アンケートを見ても概ね好意的な意見が多く、このイベントも奈良でも定着したな、といった感を強くした。



7月30日(木) 活動 晴れ 68名

久しぶりに好天に恵まれ、多くの参加者を数える。先週のイベントの参加者へのお礼。里山Gは倒木や枯れ木の処理を中心に。エコGは山ほど実

った野菜の収穫と畑の草刈りに汗を流す。景観Gは第5地区の整備や佐保自然の森の草刈りに。ただここは県の作業が入りきれいになって嬉しい。またビオは池の整備や水生生物調査、花も花壇の草刈りを中心に取り組む。パトは第2コース調査。広報が出来上がり、配布される。



8月6日(木) 活動 晴れ 64名+7名

大変蒸し暑く、仕事もなかなか捗らない。里山Gは枯れ木の伐倒とその処理を中心に作業。エコGは野菜の収穫と施肥。雨が多く大変な量の収穫である。景観GはBCの草刈りのほかビオは池の整備、そして花も畑の草取りを行う。花Gは畑の草取りに汗を流す。またパトロール班は3コースを回る。

その他グループによっては午後には活動を入れたり、8月のGGに向けての準備や話し合いで忙しいところもあり、いよいよ夏本番、といった感を強くするならやまだった。なんとかこれ以上暑い日が続かないように、と祈るだけである。



里山グループだより

池田 信明

* 里山のコナラさん、

カシの木さんの一夏のなげき*

コナラ：久し振り、カシの木じいさん

じゃないの、元気にはしてはりますか？

カシ：おお！コナラじいさんかい、変わりなく
ドングリ作りに励んでますのかいな？

コナラ：それがのう、今年の夏はどうも腹がムズ
ムズして調子が悪く、暑いせいか足元から
の水上げも良く無くてなあ、疲れる。

カシ：そう言えば、3軒隣のコナラさんも今年
は、ナラ枯れ病とかにかかり、腹から粉
も出ていて、末期症状で、秋まで持つか
どうからしい、良い薬も無いらしいよ。

コナラ：ええ！マジかよ、何処かに名医はいない
かのう、マスクをしてもダメかなあ、虫
下し薬を飲んでも効かんかのう。

カシ：ならやまの名医に聞いたら、感染防止は
難しく元気な内に子供や孫の子孫を沢山
増やしておいて、最後は、ホダ木か薪に
して供養してくれるらしいよ。

ちょっと、ふまじめな、
雑文になりましたが、
ならやまで、里山に足を
踏み入ると、最近特に
ナラ枯れ病の被害に遭い

見るも無残な姿のコナラ達を目にすると心が痛み
ます。現状ではナラ枯れ防止の特効薬も無く、何
の手当てを施す事も出来ない中で被害木の伐採を
し、今、里山グループでは、ドングリの実生を育
てて里山の「ナラ枯れ」によるギャップエリアで
苗木の植樹が行われており、予想以上に根付きが
良い様で先が楽しみです。

苗木を上手く育てて行くには避けられない大切
な作業が有ります。5年程度は下草刈りを夏場に
続ける必要が有り、植樹エリアが広がると夏場の
下草刈りはかなりの負担になりそうです。今後、
伐採作業と若木の保全育成の作業が忙しくなると
思われ、里山グループの増員が望まれます。



エコファームだより

弓場 厚次

◆ならやま「ナス」の生育日誌

平城京の長屋王邸跡から出土した荷
札木簡に、「進物 加須津毛瓜・加須津

毛奈須比」の記載があり、当時の貴族社会で既に
ナスの粕漬は食され、栽培もされておりました。

「ならやま」でも本年は育苗ハウスで大事に育て
られたナスの苗 180 本の植付けから始めました。

5月7日 千両ナス・庄屋長ナス・ジャンボナス等
の植付けを実施。ジャンボナスはお初の植栽。

5月21日 苗木は順調に成長を始め、根本を添木
で固定する。

6月2日 晴天に恵
まれ散水を行う。マ
ルチシートの効用で
雑草も少なく、乾燥
には弱い「ナス」も
助かる。各種ナスの開花が始まる。



6月2日 開花始まる



6月11日 整枝作業

6月25日 「春の感謝祭」
ジャガイモ祭に初成り
の今年初収穫ナスが、
野菜タップリカレーの
具材に加わり、参加者
に賞味いただく。

7月9日 梅雨前線が太平洋側に居座り、水遣りの
苦労も少なく、長ナス・ジャンボナス等の見事な
成長で、本日より本格収穫を開
始し「ほのぼの市場」の売上に
寄与を始める。

7月13日 この頃より連日35
度に近い高温で、台風11号の
通過後の20日には「関西の梅
雨明け宣言」もあり、夏本番を
迎える。



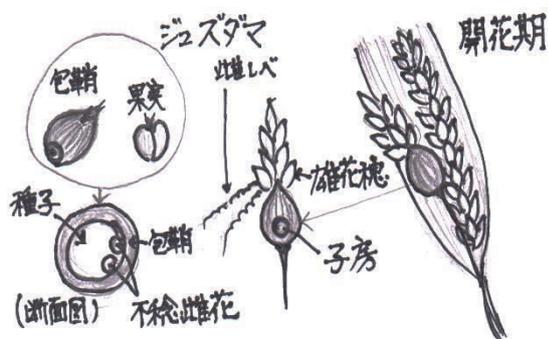
7月30日 気温は更に上昇しナスの成長も著しく
最高の食材で「ほのぼの市場」の主役を務める。
8月に入り35度を超える猛暑日が続く、お盆過
ぎには『更新剪定』を行った。**9月**には新芽が発
芽、美味しい「秋ナス」の収穫にご期待下さい。

ならやま花だより

櫻木 晴代

毎年の事ながら、植物の繁殖力に脅威と驚きを感じる。草刈機が唸りを立てている横を通り抜け、花調べ。先ず、昨年、種から育ったジュズダマの観察。昨年は発芽するまで気をもんだが、カップ3杯程の収穫。今年は法面整備のため、移植を余儀なくされ、案じていたが、元気に生育。子どもたちに天然のビーズとして遊んでほしいものだ。

ジュズダマの開花から結実までは興味深い。



また、山野草園での、オミナエシに止まったツマグロヒョウモンが一斉に羽を動かす光景は、まるで永田萌のメルヘンの世界。

【草花】 ヤブガラシ、ヨウシュヤマゴボウ、コマツナギ、タンポポ、ヌスビトハギ、ベニバナボロギク、ツユクサ、ブタナ、アカバナユウゲショウ、スベリヒユ、タカサブロウ、キツネノマゴ、ヒメジョオン、カヤツリグサ、ヘクソカズラ、ガマ、ヌマトラノオ、ムラサキサギゴケ、ミズヒキ

【木の花】 フジウツギ、シロシキブ、アジサイ、ナツフジ

【花壇】 マリーゴールド、ワタ、カクトラノオ、コスモス、ヒヤクニチソウ、カンナ、ダリア、キンギョソウ、ムラサキツユクサ、ホタルブクロ、ノギク、ヤブラン、ノコギリソウ、センニチコウ、モミジアオイ、タカサゴユリ、キキョウ、ビヨウヤナギ、オミナエシ

【実・種】 スズラン、アケビ、ヤマイモ



ペタキン日記 40

羽尻 嵩

7月25日(土) この日は、ならやまでのイベントがあり、参加した子供達にならやま池で水生生物観察をさせた。

1グループ20分ぐらいしかないのですが、ザリガニはあらかじめ朝何匹かは確保しておいたが、今年の夏はいつもと違ってドジョウは簡単には捕獲できなかった。また、ニッポンバラタナゴにしても、この日は小物が数匹しか捕獲できなくて残念だった。それでも暑い中、子供たちは網を持って池の中のエビなどをすくって楽しんでた。中には大きなドジョウを捕獲した子や、池の中に入る子もいた。



8月6日(木) 竹本さんが猛暑の中、ドジョウ養殖池を広げるために泥土を上げる作業を孤軍奮闘でやられていた。ドジョウが逃げない対策や、ドジョウの卵を保護する対策なども考えておられるようだった。

冬であれば他の方達にもお願いして人海作戦で作業をやるのだが・・・。



ならやま虫だより

菊川年明

◆イチモンジセセリ

セセリチョウの1種である。前翅長は約20mm、色彩は全体に茶色で、後翅裏に銀色の4つの斑紋が一行に並んでいるところから「イチモンジ」(一文字)の名がある。それに、このグループのチョウは一般に口吻を伸して花をせせる(ほじくる)ように吸蜜するところから「セセリチョウ」と呼ばれている。

英語ではチョウは一般にバタフライと呼ばれているが、セセリチョウ類だけはスキッパーと呼ばれている。総じて地味な体色、ガのように太い胴、俊敏に一直線に飛ぶなど、チョウらしくらぬチョウである。分類上もこの類のチョウに限っては一般のチョウと区別しており、チョウとガの中間に位置するような扱い(分類)をしている。

5月頃から秋遅くまで見られるが、晩夏から初秋にかけて急に増える。昭和30年代頃までは無数にいたチョウで、幼虫は稲の害虫として知られていた。このチョウは大移動することでも有名であった。当時のある日、東大阪市でこの大移動を目撃した。小半日近く引きも切らずに、三々五々、高く低く、北東の方からやって来て、南西方向へ飛んで行った。琵琶湖の方で集まると言われていたが、行き先はよくわからないということであった。その後、大阪市のど真ん中、道頓堀の東の方でもこの大移動に出会ったことがある。移動方向はやはり北東から南西へであった。憑かれたように飛んで行く姿は不思議な光景であった。

(写真はイチモンジセセリ)



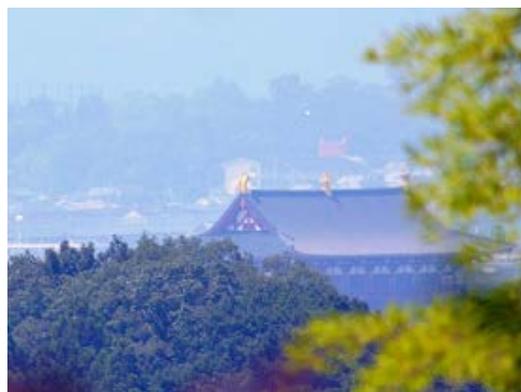
パトロール班レポート

木村宥子

8月のパトロール班は、8月22日に行われるGGプロジェクト「わくわく!ドキドキ!里山を歩こう」で冒険ハイクを担当します。

昨年も同様のプログラムを担当したので、今年はそれをもう少し進化させたものにしようと思いを絞っています。

1時間から1時間半で歩けるコースを設定し、10か所程度のポイントで里山ならではのゲームを設定する予定です。例えば昨年好評だった小羊歯のピオン、まつぼっくりの玉入れ、昆虫観察、そして鳥観の丘で大極殿を見る、等です。それに新しいプログラムとして「葉っぱの福笑い」「キムス(里山の落とし物)」を計画中。大極殿は初めての参加者にとっては大人も子供もサプライズなのですが、年々鳥観の丘と大極殿の間にある竹が視界を遮るようになってきていました。でも、メンバーの菊川さんの努力下、ばっちり見えるようになりました。後はお天気次第!皆さん歓声を上げてくれることでしょう。



(写真: 菊川年明)

観察路の整備では危険箇所への立ち入り禁止テープの設置、ウルシの除去、階段の補修、笹など繁茂の酷いところの刈り取り等ですが、かなり大きなマツ、ネジキが数本倒れており、山班に撤去をお願いしました。カシノナガキクイムシの被害木がどんどん増えてきているので、これから当日までに台風が来たりしたら、枯れ木の枝が落ちてきたり、木が倒れたりということも起きかねないのが注意点です。

7月 月例研修会

清涼の「みたらい溪谷」を歩く

7月21日(火)大峰山の麓、「みたらい溪谷」を散策しました。梅雨も上がり暑い季節に突入し、遠方のためどれだけ参加者があるのかなど心配をしておりましたが、15名の参加があり、豪快な流れを愛で、仕上げとして洞川温泉に浸かり、ハイキングの汗を流せました。



下市口から貸し切りバス?(大半が当会会員)で秘境の入り口天川川合へ。1時間のバス旅でしたが、バスは地域住民の足となっていることもあり、バイパスを通らずに車1台がやっと通れる細い道を山の頂にある集落、谷底の集落などをこまめに回り任務を果たしていました。天川川合からは天川に沿って洞川温泉まで、7.4



kmの森林浴を満喫しました。スタートして直ぐに制限人数5名の長い吊り橋、囲いなど安全面での対応は十分とられてはいましたが、中央部では遙か下に流れが望まれ、揺れもあいまって緊張さ

せられました。

みたらい遊歩道は険しい山の横腹につけられ、若干のアップダウンはありましたが樹林の中の快適な散策道でした。またところどころ道をつける余地がなく、鉄のアングルを組んだ通路となっているところもありました。先般の11号台風の置き土産のお陰で川の水量は増え、みたらいの滝などは迫力満点でした。



遊歩道に入ったとたん、植物に詳しい会員さんが崖にへばりついて咲いているイワタバコを発見。さすが! さらにヤマホトトギス?も発見。道を塞ぐように大手を広げたカツラの大木も見応えがありました。



18日から小学校が夏休みになったせいか遊歩道を多くの子供達がクラス単位、学校単位で列を作って歩いていました。洞川温泉街へ林間学舎で来ているとのことでした。後になり先になりと言いたいところですが、子供たちは元気にスイスイと私たちを追い越して行きました。

(木村 裕)

「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！」

G.Gプロジェクト イベント報告

準備の段階から雨にたたられっぱなしだったこのイベント、全体への説明ができたのは、やっと当日25日の朝であった。

イベント当日は少々蒸し暑いながらすばらしい好天になり、8時にはならやまに参加会員が集合した。テント設営や準備物の搬出を終えて、やっと打ち合わせ開始。予定していたメンバーの変更や全体の流れの再確認の後、一番大切な飯盒炊さんの手順の確認に時間を割く。特に、今回の飯盒炊さんは当GGで初めての取組みとあって、参加者は真剣そのもので質問にも熱がこもる。ここでは、安全面への配慮は勿論のこと、できるだけ子供達が自分たちで判断して活動してくれるように、つまり自主性に委ねてください、と強調される。

10時に開式、夏休み最初の土曜日を迎え、参加者は子供48名に大人25名と加えて当会員52名に来賓4名である。これだけの人数が狭いならやまBCにひしめき合うのは壮観である。会長挨拶や来賓の祝辞等の後に場所を変えて全体で記念撮影をした。子供達も期待で胸が膨らんでいるのだろう。皆の顔も輝いて見える。きっといい思い出の写真になることだろう。

そして早速飯盒炊さんに取り掛かる。それぞれ炉を作ったり火を熾す係りや、野菜を切ったり飯盒で米を準備する係り等に分かれて作業開始。普段慣れない作業なのか、なかなか仕事が捗らない。中には生まれて初めて包丁に触れたという高学年女子もいてびっくり。家庭の教育の一端を垣間見る思いがした。



それでも予定時間の12時には、ご飯もカレーのルーも出来上がる。おいしそうな匂いに子供達の顔も早く食べたいと叫んでいる。同じく準備されたジュースやお茶、そしてお漬物を添えてやっとカレーライスの盛りつけが完了し、「いただきます。」の大喝采。

沢山準備されたご飯やカレー、そして多くの人と一緒に食べる食事のおいしいこと。これもなかなか家では経験できないことだろう。おかわりをする子も多く、このイベントやってよかったな、と実感した。

午後からは、3つのグループに分かれて昆虫観察や水生生物観察、そして自然工作と順番に30分ずつ活動を行い、最終的に2時30分に活動終了する。

市街地周辺のこれだけの自然に囲まれている環境に住んでいながら、虫を取ったり池に入ったりといった自然経験が不足していた子供達は、緑の草原や泥水の池を目の前にして、歓声をあげる。虫かごの中には一生懸命とったトンボやバッタが入り、これを周りの大人に見せて鼻高々の子供達もいる。

また、自然工作では「もっくん」作りに汗を流す。本当に簡単な自然工作で、ほんの10分ほどで作れるものだが、作業に四苦八苦する子供もいて、やはり経験の差は本当に大きいな、と改めて実感する。

2時30分からは最後の振り返りの時間。長い長い夏休みを有意義に安全に過ごして欲しい、との挨拶とともに、アンケートを書いた後、ならやまで準備したカブトムシをお土産に頂き、それぞれの虫かごに後生大事に入れて児童全員がお持ち帰り。いつまで家で育ててくれるだろうか、半分心配しながら会員も参加者を見送る。

次回のプロジェクトは8月22日(土)。今回の経験を充分踏まえ、より充実した内容のイベントになるように会全体で改善・努力したいと考えている。

(八木 順一)



8月 月例研修会 夏季研修会

「尼崎 21 世紀の森づくり事業」視察他

8月17日、会員26名参加の貸切バスで、「尼崎の森 中央緑地パークセンター」をお訪ねしました。

兵庫県「尼崎 21 世紀プロジェクト推進室」の首藤整備課長、山口課長補佐に事業内容をお聞きしました。



【事業説明会場】

参加者の関心も高く、活発な質疑応答がなされました。

その後、「始まりの

森」と「各種育苗施設」を見学しました。

兵庫県の基本施策の下、尼崎市あげて取り組んで



【森の見学風景】

おられる最終対象地域 1,000ha、100年計画のスケールの大きい「森づくり事業」は、私共の活

動にも大変参考になる有意義な一日でした。

「尼崎 21 世紀の森づくり事業」概容

1. 事業背景

尼崎市臨海地域(国道43号線以南)は、従来重化学工業工場地帯であり、公害など環境問題が深刻化していた。一方で近年の産業構造の変化により工場の移転などが相次いだこともあり、兵庫県は、尼崎市を環境共生型のまちに変えるよう平成14年3月「尼崎 21 世紀森づくり構想」を策定した。この推進母体として、市民、企業、各種団体、学識経験者からなる「尼崎 21 世紀森づくり協議会」が設置された。

2 森づくりの基本的考え方

(1) 生物多様性を生み出す森づくり。

①生態系の多様性—照葉樹林、落葉樹林など多様な植生群落(森林植生6群落) ②種の多様性—300種以上を予定—木本・草本(現在110種) ③遺伝子の多様性—猪名川、武庫川流域や六甲山系周辺域など阪神間の地域のタネを使用。

(2) 100年かけた森づくり

タネから育て、丈夫な森に育成する。

(3) 尼崎市 地域みんなで育てる森づくり

①苗木里親制度(個人、企業・団体) ②エリア設定制度(企業、団体各専用の植樹エリア設定)

3. 「尼崎の森 中央緑地」—先導整備拠点

最終対象地域1,000haのうち、約29haを先導整備拠点「中央緑地」としている。平成18年にタネから植えた植生を開始。最初に植えた部分は「始まりの森」として現在森林に成長中。

4 「尼崎の森 中央緑地」の今後の計画

地域内の予定植生配置は、①落葉広葉樹林ゾーン・草原ゾーン②照葉樹林ゾーン③海浜ゾーンとしている。これら各ゾーンの環境を生かして、①森、自然の関わりを通じて環境の大切さを学ぶ場(学びの場・里山と昔体験の場) ②都会の森を楽しむ場(・森と海の広場・太古の森・スイーツスポット)として活用していき、尼崎市を「環境と共生する地域」に推進していく。

5. 今後の当森づくり整備管理は民間委託へ

今年度4月から3年契約で、公益財団法人「兵庫県園芸・公園協会」に委託を始めた。



【集合写真】

※上記事業視察後、午後は同じ尼崎市の貝や藻を使った「尼崎運河水質浄化実験施設」の見学と西宮市のヨットハーバーにある「西宮市貝類館」で世界の貝類を鑑賞しました。(寺田 孝)

自然教室チームだより

9月自然観察会 奈良公園
巨樹・巨木巡り

日本の環境省が調査上での巨樹・巨木を定義している。それによると地上1.3メートル（胸高）での幹回りが3メートル以上の木を巨樹・巨木と定めている。

一説によると奈良公園内の巨樹・巨木と呼べる大木は300本近くにも上ると言われている。

9月奈良公園の巨樹・巨木巡りを企画します。

長い歴史を生き抜いた巨樹たちに、さあみんなで会いに行こう!!!



- 【集合日時】平成27年9月29日 午前10時
- 【集合場所】近鉄奈良駅、地上部行基菩薩像前
- 【観察ルート】奈良公園一帯を楽しく探索
- 【持ち物】弁当、飲み物、暑さ対策を忘れずに！
(辻本 信一)

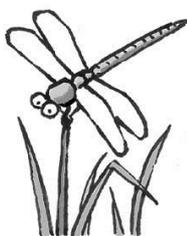
校庭の自然観察会
昆虫採集に参加しませんか！

9月には2つの小学校の放課後子ども教室で、子どもたちと一緒に昆虫採集を楽しみます。

どんな様子なのか見学してみたいと思われる方は是非ご連絡ください。

- 1. 佐保台小：9月9日(水) 2時半～4時
- 2. 帯解小：9月16日(水) 2時半～4時
(連絡先)

倉田 TEL：0742-62-8460



10月の自然観察会 (予告)
高山竹林公園からくろんど池へ

茶釜全国生産シェア90%をしめ「茶釜の里」で知られる生駒市高山町に「高山竹林園」があります。茶釜を始めとする竹製品の資料館ですが、いろいろな種類の竹が植えられていて、楽しめます。

当日はこの竹林園を見学し、路端の植物を観察しながら高山城址の近くを通過して「くろんど池」を目指します。

実施日 10月27日(火)

集合場所・時刻 竹林園 9時50分

アクセス 近鉄富雄駅発9時のバス
約30分 上大北下車

詳細は、「ネイチャーなら10月号」に掲載いたします。
(担当 平岡久美)

OP:自然観察会
ツバメのねぐら入り 実施報告

8月18日(火) 平城宮跡へツバメのねぐら入りを見に行きました。参加者は合計14名で、大空を乱舞するツバメの姿を楽しみました。何万羽ぐらいいたのでしょうか。

どこから集まってくるのだろう、どのように寝るのだろう、何でこんなきゅうくつな空間に集まるのだろう、とか例年のことながら疑問が湧いてきます。

でもご本人たちはきっといろいろ情報交換をしたり、雑談や噂話を楽しんでおり、これで満足しているのでしょうか。

そして旅立ちの時間が近づいてきています。長い、長い旅を無事乗り越えて南の国へ到着してほしいものです。

ツバメのねぐら入りが話題になったのはそんなに遠い昔からではないようですが、今では奈良の夏の風物詩としてすっかり有名になっています。まだの方は是非一度ご覧になってください。

(倉田 晃)

鳥シリーズ 9月

雀 (スズメ)



小田 久美子

♪ ちいちいばっばー ちいばっばー ♪
 雀の学校の先生は むちを振り振り
 ちいばっばー 生徒の雀は輪になって
 お口を揃えて ちばっばー ♪

懐かしい唱歌ですね。



小さい頃から漠然と、雀の鳴き声を謳っていると思っていましたが、「ちいちい」はまだしも、そもそも雀は「ばっば」と鳴くのでしょうか。

平安～室町時代には文学や辞書の中で雀は「啾々 シウシウ」と鳴く。

この「シ」はむしろ「チ」に近い音だったろうとあります。「シウシウ」は現在の「チュンチュン」と同じ一般的な鳴き声。

のんびり「チュンチュン」と鳴くばかりではなく、時には闘ったり、助けを求めたり、警戒の声をあげ、「ジジ」「ジクジク」「ジュジュ」「ジクジク」と今と同じように多く言葉を使い分けていたといいます。

平安時代の歌「畑生に 黍食むしじめ じじめきて かしましままで 世をぞうらむる」(源俊頼) があります。

もとの歌には濁音表記がなく「ししめく」と書いてあるので、「しじめく」あるいは「ししめく」と読むことも可能。

一方、ネズミも「ジジ」「ジジめいて」と鳴き、『枕草子』(うつくしきもの)にうつくしきもの、瓜にかきたるちごの顔。雀の子のねず鳴きするにを

どり来る。と、清少納言は書いています。

そういえば、どちらも「チュー チュー」「チュチュ」と聞こえますね。

稲作文化圏の東アジアでは稲の栽培(日本では弥生時代)と共に、害鳥として追われた長い歴史があり、野鳥の中で最も警戒心の強い鳥ですが、山奥でなく人里で暮らすことを選んできたパイオニア的先祖のお蔭で高品質な食べ物にあり付けるようになりました。日本全土で当たり前に見られますが山奥にはいません。

山で道に迷ってスズメを見かけたら近くに人里があると安心出来ます。留鳥ですがそれぞれが少し移動しているようです。

近年、ツバメと共に数が減っているのが心配されている種でもあります。

減反もありますが、住宅難も大きな一因です。電柱の上や、信号機に営巣しているのを見ると、暑さに弱い私などは身につまされ雛がとても可哀そうに思います。

スズメがツバメの巣を乗っ取るのは結構あるようですが、中にはタカ類の中に営巣するワイルドな親たちもいるようです。

最近はその手から餌を貰う手乗り雀もいて「たかがスズメ されどスズメ」。

身近にいて飽きずに観察が出来る、地味だけど可愛い小鳥(14 cm)です。



我と来て 遊べや親の ない雀 小林一茶
 (写真・挿絵 小田)

やさしい病害虫講座 17

「忍者、糞隠れの術！」

木村 裕

会員さんからタカサゴユリの葉に黒い泥のような物が付着しているが、これは何ですか？との質問がありました。

非常によく観察されておられます。単なる泥の付着として無視される方が大半だと思いますが、これはユリクビナガハムシと称する虫の幼虫の隠れ家です。そのまま放置するとユリの花はまず咲かないでしょう。

成虫は長さ8ミリ前後、赤褐色の綺麗な甲虫で各種栽培ユリ、野性のタカサゴユリなどの新芽、葉、つぼみなどを餌にしています。ユリ科の植物であってもホトトギスなど名前の後ろにユリと付かないものは食べません。賢いですね。



昔はなかなかお目にかかれなかった虫でしたが、5～6年前から急激に増えています。とくに住宅地内のユリで多発しています。タカサゴユリの増加が後押ししているのかもしれませんが。我が家でもユリが被害を受けており、今年は鉄砲ユリの花を見ることが出来ませんでした。

幼虫は黄橙色の柔らかい虫ですが、自分の糞を背中に乗っけて姿を隠していますので、黒い泥の塊にしか見えません。この粘つく糞を取り除くと色鮮やかな虫が見つかります。

成虫も幼虫もユリの葉を食べます。とくに新芽の部分が大好きで、食入被害を受けるとまず花は咲きません。また、小さなつぼみも好物で齧られ

るとまともな花は咲きません。餌をたらふく食べて大きく成長した幼虫は地中に潜って蛹になり、春～秋に2～3回発生を繰り返します。



この虫の仲間としてお馴染みはクコの葉を齧るトホシクビナガハムシです。幼虫は同じように糞を背中に背負っていますので、泥の塊しか見えません。クコではごく普通に発生し、葉に大小たくさんの孔をあけます。

8月6日の活動日に会員さんからウメの樹にケムシが宴会を開いているとの告げ口がありました。このケムシはモンクロシャチホコという蛾の幼虫で、8月の初めに成虫が数十個～百個の卵を一塊にして葉の裏に産むため、このように突然降って沸いたかのようにケムシ集団が現れます。これを見落としてお盆休みを過ぎて次の活動日に行くと葉を食い尽くされて丸坊主となったウメやサクラが恨めしそうな顔をしています。

この虫は年1回の発生で、毎年8月に発生します。どんな素晴らしいカレンダーをもっているのでしょうか？ 時期を決して誤ることはありません。姿からなんとなく危険な感じがするケムシですがこけおどしで、手で触れても問題はありせんので、集団を見つけ次第処分しましょう。





隠れ古社寺 ひとり旅 ⑱

歴史文化クラブ
川井秀夫

長弓寺と伊弉諾神社

猛暑日がやっと途切れた八月某日、前回に続き地元の寺社を訪ねて見た。富雄駅からバスに乗り富雄川沿いに「生駒上町」下車。真弓橋を渡り東の丘陵を目指すと、いきなりでかい石の鳥居に出会う。神仏習合が進んだ中世の寺と鎮守社が併存する。

長弓寺 (真言宗)

聖武天皇の発願。行基菩薩の開基。本尊・木造十一面観音立像。

大鳥居を抜けると対照的な小さな楼門を抜ける。

寺域に入ると画然として塔頭の薬師・宝光・円生・法華の各院が並ぶ。少し石段を登ると山懐の高見に和様と中国の大仏様(だいぶつよう)の建築様式を取り入れた本堂(国宝)が古色重厚な佇まいを見せる。



内陣に入れなかったが、大仏様とは大仏殿の鎌倉期の再建に重原上人が取り入れた建築技法で、柱間を広く取り広い空間を特徴としている。中世建築の傑作の一つであろう。

この寺は中世に栄え近世に衰えるが、往時には10以上の塔頭が谷を埋める様に並び立っていたと言う。本堂には重文が多くあり生駒の代表的寺院として名を残している。

伊弉諾神社

今年5月。出雲の旅で神話の神に関わりを持った縁で、長弓寺にこの社があると聞きお礼参りに参詣する。社地は寺の南東に位置し、社頭の広場には四方吹き流しの舞台がある。



十数段の石段を登ると正面に銅版葺きの一間社、春日造りとしては比較的大きな本殿が鎮座し、熊野・巖島・素戔鳴の末社が並ぶ。現在の祭神は素戔鳴・伊弉諾・大己貴の3神。この社は元々長弓寺の鎮守として牛頭天王(素戔鳴尊)を祀り石灯籠に牛頭天王宮と刻字が見て取れる。しかし明治期の神仏分離政策により主神を伊弉諾尊とし、伊弉諾神社とした記録が残る。時代の社会背景により、祭神を替えたり合祀されたり改名したりと、よくある話である。



帰路、塔頭の一隅に五木 寛之 氏の揮毫した書体が目に留まる、「顔は親の責任 表情は自分の責任」含蓄のある言葉に髭面をひと撫でする。この地は神武東征を阻んだ土着豪族長髓彦の本拠地でもある。伝承には諸説あるが次回は関連のある登美神社を訪ねて見たい。

瓜蠅を潰せば蟻め待ち受けし

小山喜与男

自前の南瓜畑の虫害騒動。掃除屋の蟻にも怒り心頭。畠の蟻穴にもご立腹。「蟻め」に憎しみが籠る。心お静かに。

灼熱や一途に伏せる鹿の子百合

小山喜与男

丹精の百合が40年、健やかに育つ。この猛暑、生活の排気など避暑対策が必要ですか。作者の優しさが伝わる。

ヒロシマや読経の如く蝉しぐれ

八木 順一

八月は祈りの季節。原爆忌の映像でしょうか。短命な蝉の命の絶唱が聞こえる。反戦の意が伝わる共感の一句。

鳥羽伏見豊かに香る桃の丘

八木 順一

伏見は戦国期から桃の栽培が盛んであったと言う。「桃山」の地名が残る。近くにお住まいの作者は自邸にも栽培されている由。

汗拭ふ昭和の人に余り風

青木 幸子

この昭和人は戦中派かな。戦後派？。この時季、里山の活動は堪える。林間から吹く風は清涼剤。「余り風」の語音がお手柄

里人の腹にするりと冷し汁

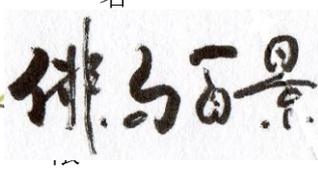
青木 幸子

この夏、池田ご夫妻の「冷し汁」が好評。「腹にするり」の形容動詞が面白い。お代わりをする人が増えそう。

茄子の馬こちらに向けてふたり酒

古川 祐司

この季節、魂送りに形代の野菜を動物に模した茄子の馬・瓜の牛を飾る風習が残る。作者は先年亡くした愛犬への思いだろうか。



監修 川井秀夫

盆浴衣派手に装ふ婦人会

鈴木 末一

この季節、浴衣は日本の民族衣装。少し派手な柄に心うきうき。盆踊りは正に日本の風物詩。婦人会の皆さんとひと踊りしましょ

鎮魂の思ひ巡るや盆提灯

鈴木 末一

作者は自治会の重鎮、仕掛けの準備に大奮。灯りが入り、揺れる提灯に亡き人を追想する。盆唄も哀愁に満ちて夏が逝く。

轟々と岩肌包み滝の虹

坂東 久平

7月例会。みたらい溪谷。雨上がりの怒涛の様な水量は圧巻。虹の架け橋に歓声しきり。めんめらの露店風呂も最高でした。

黙禱の祈りに蝉の和讃かな

坂東 久平

厳肅な祈りの場に蝉しぐれ。仏の声明の様に命の丈を奏でる。限りある命、人もまた。鎮魂の夏が過ぎて行く。

猛暑日やお池の魚も杖をつく

川井 秀夫

体温を越える暑さ。タマリマヘンナ。我が家のメダカにも冷水を注ぐ。里山のタナゴさん、大丈夫？。

柞枯る伐倒の音山に消え

川井 秀夫

ははそ
なら山のナラ枯れも深刻。林縁部の被害木を伐倒。人為の対策もお手上げとならば止む無し。音にコナラの恨み節を聞く。

初秋や曲る仏の薬指

川井 秀夫

お堂の中に涼風を感じる。残暑のなか小さな秋の気配。仏さんの指もOKサイン。さあ、秋の陣も頑張るか・・・

癒しの散歩道

短い夏の終わりに



谷川萬太郎

心なしか季節の香り色褪せた姿は 薄れゆく夏の終わりの最終章なのだ
 今は懐かしき思い出を振り返れば 我が胸の奥はそこはかたなく寂しけり
 庭先の朝顔が俄かに咲いたかと思えば 夕べに萎むという儚くも短き命よ
 真青な夏空を仰ぎ欲しいままにした 燕尾服をまとったツバメたちの群れは
 早々に身支度を整え次の故郷へ旅立つ 雲の峰去りし後に急に夕立雲が覆い
 雷鳴天にとどろきて強く降る雨よ 戻らぬ夏の思い出に戸惑い乍ら涙に濡れる

思わぬ俄雨に綺麗になった向日葵に 雲間から太陽が顔を出して微笑み返す
 長く短い夏はただ茫然と彷徨いながら 移り行く季節の哀しさに声もなく
 焼けつくような夏の日の記憶辿れば 我が心に浸みてその思い果てなく蘇る
 雨上がりの山裾に生い茂る森の木陰で つくつくぼうしが秋色に染りて鳴く
 朝な夕なに照り輝いた暑い夏は西へ 肌を優しく撫でる風は秋の匂いがする
 歩くたびに今来た道はやがて時が過ぎ いつかは季節の抜け殻になる運命だ

ならやま茶論

「たのしみ たのしみ」

竹本雅昭

泥鰌池：旦那この暑いのに何しまんねん。

旦那：何やて、あんたがしっかり見張りして
 へんから、みんな逃げてしもたがな。

泥鰌池：そんなんえらい言掛りでっせ、
 手足のないもんには無理な話や。

ドジョウたちには止めときと言ったんやけど、
 おちょぼ口でボソボソと何か言うて、
 10本の髭でくすぐられたら止めようが
 あらへん。

旦那：まあええわ、ドジョウも8月迄は繁殖で
 忙しいやろ、好きな所へ行ったらええわ。
 どおせビオトープのどこかにおるやろ。

泥鰌池：ほんで今日のお仕事は。

旦那：ここはちょっと狭いし横に掘ったのと
 一緒にして広め、プランクトンを多くして
 彼等に喜んでもらいたいねん。

泥鰌池：うまいこと言うて結局はあれですやろ。

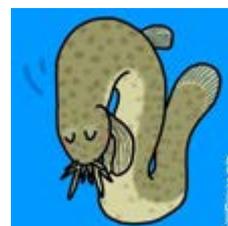
旦那：アホ、そんなこと言うたら唾が出てくる
 やないか。今では話題にも上がらんどジョウ
 や、せめてこの里山で子供達に見てもらいた
 いんや。

泥鰌池：そりゃあ楽しみですなあ、今はカブト虫
 がNo. 1の人気やけど愛嬌あるドジョウ
 やったらええ勝負になりますな。

旦那：まだまだ一にも二にも工夫せんならん、
 あんたもしっかり協力してや。

泥鰌池：了解、頑張りまひよ。

～終～

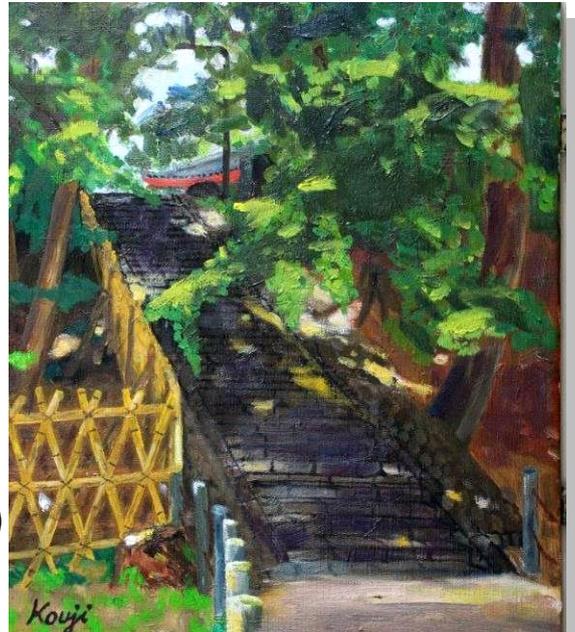




- ① 墨彩画 (羽尻 嵩)「コウノトリの郷」
- ② 油 画 (永井幸次)「木漏れ日」
- ③ 水彩画 (八木順一)「宝塚・中山観音にて」
- ④ 陶 芸 (小島武雄)「水玉猫」
- ⑤ 水彩画 (鈴木末一)「十一面観音」



①



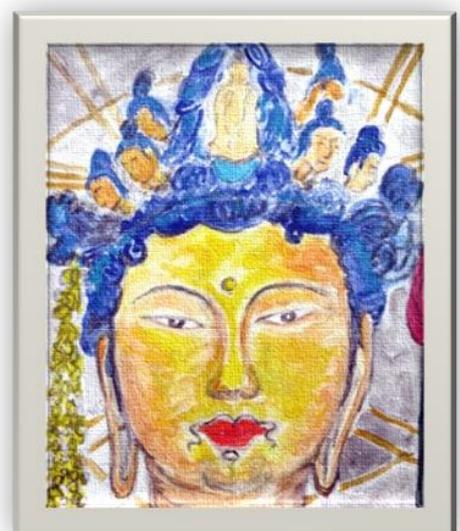
②



③



④



⑤

いよいよ“皆伐施業”が始まります！

里山グループ 阿部 和生

炎天下「ならやま大通り」を走りますと、点々とあるいは右に左に正面に赤茶けたコナラが目立ちます。秋の紅葉ではなくカシノナガキクイムシによるコナラの被害木です。昨年と比べ異常な増え方をしていると感じます。市街地の公園、周辺部の林、御陵にもその被害が増えてきました。もはや防除や拡散防止の手立てがありません。行き着くところまで放置となります。

残された解決策の重要な選択肢の一つが、部分皆伐更新による若返り施業なのです。広葉樹の伐採は、危険を伴い・多大な労力を要する作業が伴います。また萌芽更新が期待できない箇所は、これまでの取り組みのように適切な「植樹」も必要となり、場所によっては翌年の草刈りも必要とされるかもしれません。一方でモザイク状に、ある一定地域が施業されますと放置荒廃から脱出、長年にわたり培われてきた豊かな生物の保全や再生があり、里山本来の存在意義が戻ります。ナラ枯れで被害を受けた樹木更新がなされ、また放置によりはびこっている常緑照葉樹〔シイ、カシ、ソヨゴ、等々〕の伐採は、この地域の優れた景観を保つことにも役立ちます。

この春以来許可申請を行い作業方法の検討をしました。パトロール隊に依頼している植生調査終了後の、9月中旬以降～28年2月までの期間を目標に2000㎡の皆伐区域の作業を始めることにしました。安全確保・多人数の作業などの視点から伐採作業を活動日以外の日に設定し、活動日は、伐採を伴わない作業と考えています。この期間中は、関係者以外の現地への立ち入りを原則禁止と致します。会員だけでなく部外者による不測の事態を避けたいのです。観察路の閉鎖も伴います。秋には催事も控えています、事前に打ち合わせを密に行いたいと考えます。

皆様方のご協力よろしくお願いいたします。

**仲間入りしました**

6月末に入会しましたが、7月中は、台風の接近やら悪天候で、8月は猛暑で熱中症を警戒して活動日に出席しなかったので、まだ会員としての実績がありません。

私は会社リタイア後から忙しくなりました。思うところあって僧籍を取得しようと、京都の佛敎大学の通信教育課程に入学、3年かけて僧籍を取りました。また、夫婦で、フレンドシップ・フォーアースという、世界の支部とホームステイをし合いっこしながら市民レベルの国際友好を進める活動に参加。これまでにアメリカ、ベルギー、ロシア、ドイツなどからの来訪者を受け入れ、ドイツ、オーストラリアへ夫婦で渡航、ホームステイしました。とても楽しい活動でした。

リタイアから13年。自分の楽しみの追求だけでなく、ボランティア活動ということ意識し始めました。一度は「ボランティアガイド」を志願したのですが、なぜか受け入れてもらえませんでした。どうやら年齢でひっかかったようです。

ボランティアさえ思うようにできない年になったかと、かなり落ち込みました。そんな折、20年来の知人である、副会長の鈴木末一先生とよくお会いするようになり、入会を誘われたのです。活動を見学させていただき、奈良に残された自然にすっかり魅せられました。まさに「人」と「自然」に出会った、というべきです。「のらの会」の“ノミネーション”やチェコのジョイントコンサートなどに参加するうち、徐々に実感がわきつつあります。はやく会員として皆様の仲間入りをしたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

(吉川利文)

鈴木先生の活躍ぶりや夫の見学体験を聞くうち、入会を思い立ちました。ただ、近くに住む孫4人の子守をさせられたり、英語の勉強会と活動日が重なっていたりして、活動日に参加しにくい現状です。1日も早く参加できるよう努力いたしますので、よろしくお願致します。

(吉川公子)

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理せず・諦めず
活動予定日

9月	3 (木) 24 (木)	10 (木)	17 (木)
10月	1 (木) 22 (木)	8 (木) 29 (木)	15 (木)

- ◆ 場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約20ヘクタールの里山林地 (県有林)
- ◆ 朝の打ち合せ：ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 作業開始：午前8時から可 (夏季期間)
- ◆ 終了予定：午後1時 (夏季期間)

◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分
 - ② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場 115系統
8：28発、高の原行き (平日)
 - ③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場 115系統
8：36発 JR奈良駅西口行き (平日)
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩7分

- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、軍手 (作業用具は現地で用意)



- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。



- ◆ 連絡先：八木 順一 0774-55-4044

9月3日

<里山 Gr>

<林野庁関係作業>

カンナガ被害木伐採、その他枯損木伐採
薪関係作業 境界ロープ張り

<エコファーム Gr>

大根畑の畝作り
白菜 (王将) 種まき・干しネギの定植

<景観 Gr>

草刈 (彩の森)・水生生物調査・池の整備
山野草園整備名札立て
皆伐予定エリア2000㎡の希少植物調査

9月17日

<里山 Gr>

<景観サポーター関係>

樹木の伐採作業の指導 境界ロープ張り

<エコファーム Gr>

大根種まき (YRくらま 漬物大根)・大蒜の植え付け

<景観 Gr>

草刈 (BC周辺)
水生生物調査、池の整備
マリーゴールド漉き込み、春花種まき
佐保自然の森、植樹木の銘板設置

9月10日

<里山 Gr>

<林野庁関係作業>

カンナガ被害木伐採、その他枯損木伐採
薪関係作業 境界ロープ張り

<エコファーム Gr>

大根種まき (YRくらま 聖護院 丸大根 紅心・日野菜 小カブ 向陽二号 ニンジン)

<景観 Gr>

草刈 (彩の森)
池の整備・西花壇草取り・移植
皆伐予定エリア2000㎡の希少植物調査

9月24日

<里山 Gr>

皆伐地区の伐採状況点検と整理方法の確認
薪関係作業

<エコファーム Gr>

種まき・玉葱 (ターボ) 赤玉・水菜 壬生菜 レタス・チンゲンサイ 大和マナ・菜花

<景観 Gr>

草刈 (第五地区/佐保自然の森)・池の整備
アスパラ園撤収、山野草園施肥
皆伐エリア周辺の観察路のコース変更
観察路の整備、手すり、丸太階段の更新補修



戦中派の遺言

川井 秀夫

私の所属する俳句結社の三代前の師匠が国文学者であり、角川文庫の創始者でもある角川 源義 氏で、師系を辿れば曾祖父の師匠にあたる。

命綱たのむをかしさ敗戦忌

この句は1975年8月15日にガンで入院され闘病中に詠まれた、言わば辞世の一句である。同世代が大勢落命したのに自分は生き延びた、いま、病を得て治療を命綱と頼んでいる。そんなわが身を突き放して眺めた句であろうか。

長女の辺見じゅん さんが不用意に「終戦」と言う言葉を使うと「あれは敗戦だ。終戦なんて簡単に言うな」と叱られたと述懐されている。

戦後70年、当時私は中学一年生。食糧難、空襲の恐怖、集団疎開など耐え偲ぶ日々の中で、御国の為に少年兵として一身を捧げる覚悟が芽生えていたと思う。この最後の一年に200万人が落命、特攻・沖縄・空襲・原爆と悲劇の連鎖が起きている。「日本が敗けた」大人が号泣し、子供心にもあの青い夏空が滲んで見えた記憶が拭えぬまゝ残っている。

今、国会では安全保障改定法案の論戦がかしましい。違憲か合憲か、グローバルな中での国防の難しさ、理と理の相克に国民は瞠目している。

私は思う。戦争を知らない為政者たちの舵取りに大きな懸念を抱いている。戦争に巻き込まれないか、徴兵制は復活するのか、命と財産、安全と幸福、平和の理念が希薄になる事を恐れる。国際的にも評価の高い「PEACE MAKER JAPAN」。この国の矜持を揺るがしてはならない。

「戦争」と言う過去は 間もなく歴史の一コマとして風化して行くかも。戦中派の端くれとして生ある限り次世代の人達に「戦争」と言う残虐性を伝承していきたいと思っている。この一文は一つの私の行動でもある。

旬菜 旬食



ならやまエコファーム今月は、南京料理

- *南京の肉詰
- *南京コロッケ
- *南京スープ



- ◆材料 (2人分)
- 坊ちゃんかぼち
- や又は南京小 2個
- ・合挽きミンチ 300g
- ・玉葱 1



- 個
- ・卵 2個
- ・牛乳 200 cc
- ・コロッケ付け合せ用野菜 (キャベツ・胡瓜・トマト)
- 調味料; メリケン粉・パン粉・油・塩・胡椒・醤油・砂糖・酒・味醂

◆作り方

*南京の肉詰

南京の上部2cm位切り中の種などを取り出す。合挽きミンチ (150g) に玉葱 (半個) のみじん切り・卵 (1個) 塩・胡椒を混ぜよく練り合わせ南京の中に詰める。南京が被る位に水を入れ、出汁の素、砂糖 (大匙1)、醤油 (大匙2)、酒 (大匙1)、味醂 (大匙1) で煮含める

*南京コロッケ

南京を小口切りにして柔らかくなるまで煮る。煮えたら南京をつぶす (半個分はスープ用にとっておく) その中に合挽きミンチ (150g) に玉葱みじん切り (半個)、卵の黄身を入れ、よく練り合わせ楕円形に丸め、メリケン粉・卵 (白身水溶き)、パン粉をつけて油で揚げる

*南京スープ

南京 (半個) 潰したもの (ザルで裏漉ししても良い) の中に牛乳 (200 cc) を入れ塩・胡椒で味付けして一度温める (冷やして食べても美味しい)

*牛乳の代わりに市販のとうもろこしスープを使ったり、又オクラなど入れても良い。

(池田富子)



行事案内 part 1

H27年9月 月例研修会

高野山町石道 (ちょういしみち) ハイキング (パート2)

今回は、昨年9月の月例研修会「高野山町石道」の後半を歩くことになります。南海上古沢駅から町石道を高野山壇上伽藍・根本大塔までを歩くと少しきついで、逆に高野山から下るように設定しました。時間的に余裕がありませんので、高野山の散策はありません、ただ壇上伽藍で30分程度の時間を取りたいと思います。

担当 境 寛 (携帯 090-5254-9442)、寺田 孝

日時 : 9月25日 (金)

集合時間・場所 : 8時00分 南海電車なんば駅
3F 北改札口特急券売り場前

難波 8:19 (橋本行急行) ~ 9:11 橋本 9:16 ~ 10:04

極楽橋 10:09 (ケーブル) ~ 10:14 高野山 10:19 (バス) ~ 10:31 高野山金堂前 (壇上伽藍)

解散時間・場所 : 16時30分 (予定) 南海上古沢駅
上古沢駅発時刻表

橋本行き 15:38 16:17 16:46 17:26

運賃 : 難波~高野山 1,260円 高野山~バス~高野山金堂前 290円 上古沢~難波 830円

近鉄高野山1dayチケット (バス代込) 3,070円

(近鉄沿線乗車 生駒からでも100円程度お得)

雨天時について : 会の申し合わせ事項に準じて、前日午後7時前のNHK TV 天気予報で**和歌山県北部の降水確率が午前60%以上の場合は中止**します。

コース概要: 距離 11km 歩行時間 約4時間30分
金堂前 11:00 ~ 鏡石 (昼食) ~ 六地藏 ~ 神田地蔵堂 ~ 二つ鳥居 ~ 南海上古沢駅



9月歴文研修会ご案内 二上山博物館と馬見丘陵等の古墳を巡る

残暑の9月は、マイクロバスで、二上山博物館や古墳、御陵、神社などを巡ります。

二上山は、大津皇子や中将姫伝説などのロマンに満ちた山ですが、太古の昔は火山でした。

「二上山博物館」では、その歴史と火山が作った3つの岩石について詳しい展示があります。

(石器時代で活躍した「サヌカイト」、古墳時代で活躍した「凝灰岩」、近代で活躍した「石榴石：金剛砂」) 学芸員の解説で勉強しましょう。

古墳では、**牧野古墳の石室**を見学します (懐中電灯をご用意下さい)、この古墳は、舒明天皇の父・押坂彦人大兄皇子の墓と推定されています。**馬見丘陵**では沢山の古墳がありますが、公園館で全体を把握した後、主力の2つの古墳を見ます。

ナガレ山古墳 :

築造時の姿を復元しており、円筒埴輪の敷に圧倒されます。



巢山古墳 : 丘陵

内で最大の規模で、大王級の墓です。周濠や張出が見事で、出土品について現地で解説をします。

島の山古墳 : (周濠を巡らせた美しい姿)、廣瀬神社 (砂かけ祭りで有名、水の神様) から帰途。

1. 実施日 : 9月15日 (火)
2. 集合 : 8時30分 近鉄西大寺駅南口
3. コース : (昼食 : お弁当を持参下さい)

武烈天皇陵、志都美神社 (社叢は天然記念物) → 二上山博物館 (学芸員の解説) → 牧野古墳 (石室見学) → 馬見丘陵公園 (ナガレ山古墳、巢山古墳やかぐや姫伝説) : 公園内を歩きます。 → 島の山古墳 → 廣瀬神社 → 近鉄西大寺駅

4. 会費 : 3,000円

5. 申込先 : 歴文事務局・古川祐司

(バス定員27名で締め切ります)

(担当 : 森英雄、岩本次郎、坂東久平)



行事案内 part 2

10月例研 一泊研修旅行 (予告) 「竹田城跡」など但馬方面

今年の一泊研修旅行は、兵庫・但馬方面です。

10月19日(月) ①日本百名城の一つ「竹田城跡」

②兵庫県観光百選第一位の「但馬高原植物園」

③宿泊は、複数の露天風呂が楽しめるシルク温泉「やまびこ」

10月20日(火) ①県立コウノトリの郷公園「コウノトリ文化館」で、コウノトリの生態、町おこしなど学芸員のレクチャー。②出石城下町探訪「出石城跡」、近畿最古の芝居小屋「永楽館」など昼食は勿論「出石そば」③由緒の「出石神社」

*詳細は次月号でご案内いたします。

- ・実施日 ; 10月19日(月) ~ 20日(火)
- ・集合 ; 近鉄高の原駅前 8:30 (予定)
- ・会費 ; 23,000円
- ・幹事 ; 羽尻、田矢、山本(妙)、寺田

歴史文化クラブ10月度研修会中止のお知らせ

歴史文化クラブ10月13日の研修会「山背古道に日子坐王の伝承を訪ねる」につきましては予てから準備を進めていたところですが、当月の全体スケジュールを考慮し、今回は中止することと致しました。

10月中は、奈良・人と自然の会による月例研修会の一泊旅行がある他、秋の各種の行事が立て込んでおりますので、世話人の皆さんともご相談しまして、より適切な時期を選んで仕切り直すことにいたしました。

ご期待いただいたメンバー各位には申し訳ありませんが、何卒ご了承を賜りますようお願い申し上げます。

歴史文化クラブ
事務局 古川 祐司



秋のめぐみだ！お芋を掘ろう！

秋のならやま名物公開イベントについてお知らせします。会員の皆様方、是非ともご予定していただきますようお願いいたします。



- ① 日時 平成27年10月17日(土)10~15時
※ 雨天の場合は翌日18日(日)に延期
 - ② 参加者 佐保台小の元気っ子の皆さんを主に保護者の皆さんの計50名。
 - ③ 内容 午前中は、ならやま散策(自然観察等) 昼食には、豚汁の提供
午後は、芋掘りと芋のコンテスト等
- ※ ならやま散策は、周遊コースの自然観察をしながら、ゲームなども取り入れます。
※ 今年のサツマイモの出来具合は？猛暑の影響は？等々、少々気がかりではありますが、9月中頃に試掘して、どのような芋が収穫できるかが楽しみです。(エコファームチーム)

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪



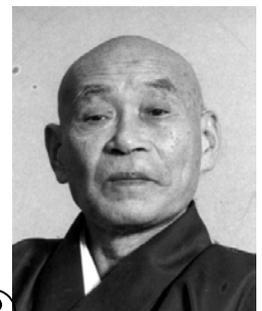
【問】3人の人達は、いずれも奈良に深い関わりがあります。お名前を漢字でお

答えください。【締切】9月1日

【応募方法】メール【景品】お楽しみ？



①



②



③

【8月号答え】

- ① 河瀬直美
- ② 荒井敦子
- ③ 松本真理子

平成27年・8月度幹事会報告

- ◆日 時：平成27年8月4日(火)17:00～19:50
- ◆場 所：奈良市中部公民館
- ◆出席者：幹事20名、顧問2名
- ◆案 件：

I 会長挨拶

II 会計・事務局より

1. 会員動向、会計報告（会員1名増、151名）

III 活動・行事関係 課題・懸案・確認事項

1. 3ヶ月、当月スケジュールの検討と確認
2. ならやまプロジェクト関係報告と予定確認
3. GGプロジェクト報告と次回イベント説明
4. 月例研修会：8月17日「尼崎21世紀森づくり」視察について
5. 自然教室：8月18日平城京ツバメの埒入り見学について
6. 歴文研修会；7月活动報告（8月は予定なし）

IV 広報関係

1. ネイチャーなら9月号編集内容について
2. 会報特別号（国土交通省）について
3. 会報配布方法について

V 周年行事（事業）関係

1. 当会設立15周年(2016年9月)、ならやまプロジェクト10周年(2017年3月)に際し、記念事業実検討並びに実行委員会編成について

VI 喫緊案件

1. GG助成金の申請（平成28年度）について
（来年度も参加、但し天平祭は不参加にて可決）

VII その他

1. ボランティア保険（ボランティア活動保険、ボランティア行事保険、森林ボランティア保険）について
以上



◆ 申し合わせ ◆

- ※ ならやまでのプロジェクト活動やイベントは、前日午後7時前のNHKTV天気予報で奈良県北部の降水確率が午前60%以上の場合は、中止になります。
- ※ 通常活動日【木曜日】が、雨天等により中止になった場合、翌日【金曜日】を臨時活動日とします。



◆朝の連ドラ（まれ）で、一徹が「生まれてくる子供に恥ずかしくない親父になりたい。立派な親父の背中を見せたい。」と云う場面があった。

（一徹の理想の親父は、塩田の職人：元治であったが・・・）

「薫習」という言葉がある、辞書によれば、「物に香が移り沁むように、あるものが習慣的に働きかけることにより、他のものに影響・作用を植え付ける。」という意味である。

家庭であれ、職場であれ、そこにある価値観や行動形態、ものの考え方などが、教えられなくても「薫習」で身について来るのである。

皆さんは家庭で子供達に無意識の「薫習」をして来ましたが、結果は如何でしたか。

「ならやま」でも、先輩の背中が輝いて見えるよう、日々シッカリやれればと願いたい。

（行々子）

会報誌【ネイチャーなら】・第164号

発行：奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲

<http://www.naranature.com>



編集チーム代表：坂東久平